

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成28年度 第8回 会計実務検定試験

財務諸表分析

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、問題は開いてはいけません。
2. 解答用紙の指定欄に試験場校名・受験番号を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 試験は「始め」の合図で開始し、「止め」の合図があったら解答の記入を中止し、ただちに問題を閉じなさい。
5. 制限時間は90分です。

【1】 次の文章のうち、正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入しなさい。

1. 純資産負債比率は、長期の安全性を判断する指標である。
2. 株主資本当期純利益率は、一般的に低い方が望ましい。
3. 総収益当期純利益率の総収益とは、売上総利益と営業外収益を合計したものである。
4. 仕入債務回転率は、貸借対照表と損益計算書の情報から計算する。
5. 売上高営業キャッシュ・フロー比率は、キャッシュ・フロー計算書の情報のみで計算できる。

【2】 大手家具メーカーH社の要約損益計算書により、次の問1、問2に答えなさい。

〈資料〉

H社の要約損益計算書

(単位：百万円)

(a) 売上高	58,000
(b) 売上原価	27,000
売上総利益	31,000
(c) 販売費及び一般管理費	30,500
営業利益	500
(d) 営業外収益	200
(e) 営業外費用	10
経常利益	690
(f) 特別利益	1
(g) 特別損失	31
当期純利益	660

問1 H社の売上高販売費及び一般管理費率と経常収益経常利益率を求めなさい。なお、計算上端数が生じた場合、%の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。

問2 次のアからコの企業活動の情報は〈資料〉のH社の要約損益計算書のどの区分に含まれるか。損益計算書の区分の前に付した記号(a)から(g)で答えなさい。ただし、同じ記号を2回以上使用しても良い。

- ア. 買掛金を所定の期日前に支払い、割引を受けた。
- イ. 販売促進のため、広告料を増やした。
- ウ. 従業員の給料を下げ、給与総額を減額した。
- エ. 銀行で手形を割り引いた。
- オ. 備品を売却し、その売却益を計上した。
- カ. 決算において、H社が売買目的で保有している株式の時価が下がった。
- キ. 期中に仕入れた商品の値引きを受けた。
- ク. 保有している株式の配当金を受け取った。
- ケ. 在庫処分で値引き販売を行い、総額的に昨年度よりも売れた。
- コ. 火災によって、店舗が消失した。

【3】 〈資料〉に示した財務諸表により、次の問1、問2に答えなさい。

問1 飲食業を営んでいるA社の前期および当期の安全性に関するアからカの指標を求めなさい。

- ア 当座比率
- イ 流動比率
- ウ 固定長期適合率（※その他の包括利益累計額は含まない）
- エ 流動負債営業キャッシュ・フロー比率
- オ 総資産負債比率
- カ 当期純利益キャッシュ・フロー比率

（注意事項）

1. アからカの数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答えは、%の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数点第1位の数値がないときは、例えば、2.0%のように解答すること。
3. キャッシュ・フロー計算書の「現金及び現金同等物」は、貸借対照表のその他の資産の一部も含むため、「現金及び預金」の金額と必ずしも一致しない。
4. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス8.8%の場合は、「△8.8%」と解答すること。

問2 問1の指標から次の視点に基づき、前期と当期の安全性について判断しなさい。なお、文章中の（ 1 ）から（ 6 ）には、問1のアからカの最も適切な指標名を記号で選び、（ 7 ）は選択肢から選んで記入しなさい。

《短期の安全性》

（ 1 ）を見てみると前期の方が高く、望ましいとされる200%を超えている。これは銀行家比率とも呼ばれ、この比率が低いと、たとえ利益が出ていても黒字倒産の恐れがあると言われている。さらに厳しく支払能力をチェックし、厳密に測定するため酸性試験比率とも呼ばれている（ 2 ）を見てみると、前期の方が高い。

次に、企業のキャッシュの流れを見てみると、（ 3 ）と（ 4 ）は、どちらも当期の方が低い。特に配当金が支払可能かどうかの判断を行う指標である（ 4 ）は、当期の方がかなり低い。

《長期の安全性》

企業が長期的な活動を行うために必要な資産を調達するための資金が、安全な源泉でどれくらいまかなわれているかが分かる（ 5 ）を見てみると、当期の方が高い。また、銀行や仕入先などの債権者への保証が安全であるかどうか判断することができる（ 6 ）を見てみると、当期の方が高い。

総合的に判断すると（7 前期・当期）の方が安全性に優れている。

〈資 料〉

A社の要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期	当期		前期	当期
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	5,800	7,611	支払手形及び買掛金	4,500	4,200
受取手形及び売掛金	4,100	4,300	短期借入金	500	700
有価証券	8,200	2,900	その他	3,800	4,300
商品及び製品	2,900	2,800	流動負債合計	8,800	9,200
原材料及び貯蔵品	400	320	固定負債		
その他	100	900	長期借入金	70	20
貸倒引当金	△30	△31	その他	1,900	2,100
流動資産合計	21,470	18,800	固定負債合計	1,970	2,120
固定資産			負債合計	10,770	11,320
有形固定資産	9,500	9,700	純資産の部		
無形固定資産	1,300	1,300	株主資本		
投資その他の資産	20,000	24,000	資本金	11,500	11,500
固定資産合計	30,800	35,000	資本剰余金	11,100	11,100
			利益剰余金	19,800	20,000
			自己株式	△1,600	△1,860
			株主資本合計	40,800	40,740
			その他の包括利益累計額	600	1,660
			非支配株主持分	100	80
			純資産合計	41,500	42,480
資産合計	52,270	53,800	負債純資産合計	52,270	53,800

A社の要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期	当期
売上高	65,320	66,310
売上原価	33,920	34,650
売上総利益	31,400	31,660
販売費及び一般管理費	29,240	30,090
営業利益	2,160	1,570
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	9	7
営業外収益合計	15	12
営業外費用		
支払利息	20	10
営業外費用合計	20	10
経常利益	2,155	1,572
特別利益	270	230
特別損失	740	660
税金等調整前当期純利益	1,685	1,142
法人税，住民税及び事業税	200	430
法人税等調整額	△40	20
法人税等合計	160	450
当期純利益	1,525	692
非支配株主に帰属する当期純利益	30	50
親会社株主に帰属する当期純利益	1,495	642

A社の要約連結キャッシュ・フロー計算書

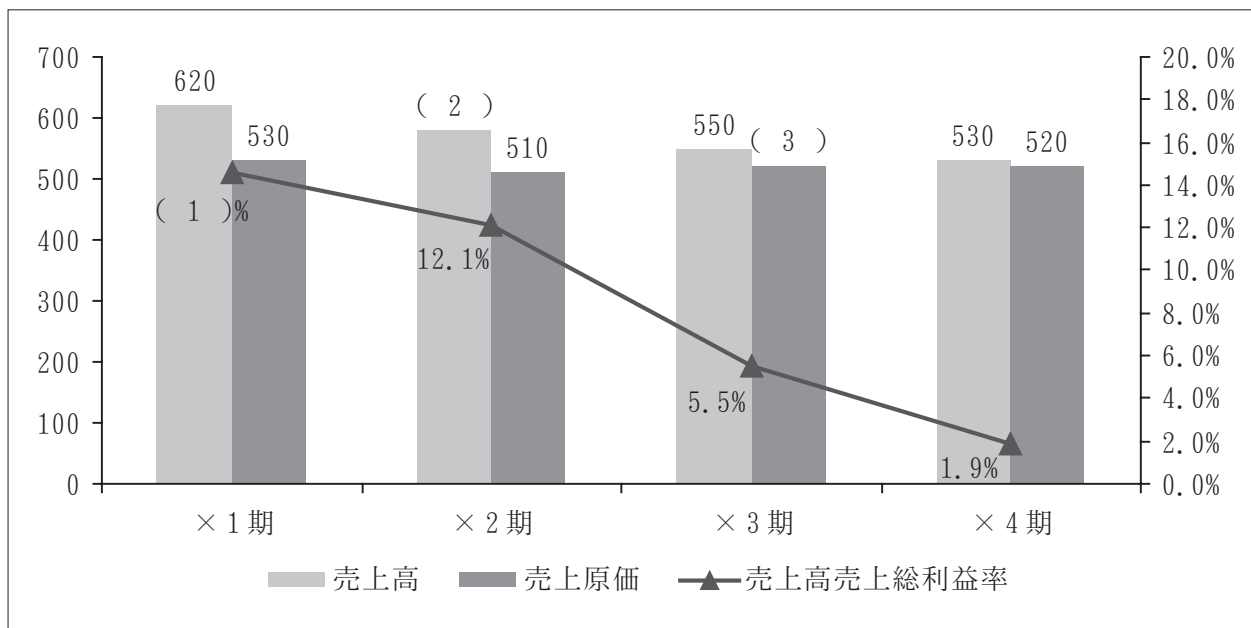
(単位：百万円)

	前期	当期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,640	4,100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,610	△5,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	△980	△552
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	50	△1,680
現金及び現金同等物の期首残高	10,450	10,500
現金及び現金同等物の期末残高	10,500	8,820

- 【4】 以下の〈資料1〉に示したグラフは、飲食業のチェーン展開をするM社の売上高と売上原価、売上高売上総利益率の×1期から×4期までの時系列推移を示したものである。また、〈資料2〉は×1期から×4期までの販売費及び一般管理費と売上高営業利益率の推移を示している。これらをもとに次の問1、問2に答えなさい。なお、〈資料1〉・〈資料2〉における金額は百万円未満、％は小数点第2位を四捨五入してある。

〈資料1〉

(単位：百万円)



〈資料2〉

(単位：百万円)

	×1期	×2期	×3期	×4期
販売費及び一般管理費	50	60	80	(4)
売上高営業利益率	6.5%	1.7%	△9.1%	△20.8%

問1 〈資料1〉・〈資料2〉の(1)から(4)にあてはまる数値を計算しなさい。ただし、数値は百万円未満を四捨五入し整数で、％は小数点第2位を四捨五入し第1位まで解答すること。

問2 下記の文章の(a)から(c)にあてはまる語句を、〈資料1〉・〈資料2〉の中から最も適切と思われる語句を抜き出し、記入しなさい。

×1期から×4期にかけて、(a)が減少し(b)が横ばいであることから、売上高売上総利益率が大幅に減少してしまった。この原因の一つに、×2期から×3期にかけて起きたM社の企業イメージを損なう事件が挙げられる。そこで、企業イメージの回復を図るため、PR活動などを行い、(c)が大きく上昇し、結果として売上高は変わらず、単に営業利益を圧迫することになった。

【5】 次の文章を読んで、以下の問1、問2に答えなさい。

平成28年1月29日に日本銀行が「マイナス金利導入」を発表し、各金融機関の金利が している。そこでYさんは、100万円の定期預金を、銀行に預けたままにしておくのが良いのか、株などに投資した方が良いのか考えるようになった。

まず、Yさんは、今預けている銀行の1年の定期預金の利息を調べることにした。そうすると、年利0.02%であることがわかった。これは、100万円預けていると1年後に、 円利息がつく計算になる。

一方、最近読んだ新聞には、ここ数年の円安傾向によって、海外から来日する外国人が多くなり、「外国人の爆買い」（インバウンド消費という）についての記事が載っていた。そこで、Yさんは、インバウンド消費による増収増益が期待されるS社とT社の株式について詳しく調べてみることにした。以下は、その資料である。

〈資料1〉

	S社	T社
株価（1株あたり）	2,500円	800円
発行済株式総数	5百万株	40百万株
当期純利益	350百万円	3,000百万円
純資産	18,000百万円	56,000百万円
1株あたりの配当金	30円	12円

上記の〈資料1〉をもとに、株式の価値を評価する指標等を計算することにした。なお、経済新聞などでは、次の〈資料2〉にある株価純資産倍率は 、株価収益率は として表示される。

〈資料2〉

	S社	T社
株価純資産倍率	(a) 倍	(b) 倍
株価収益率	(c) 倍	10.7倍
配当利回り	(d) %	(e) %
購入可能な最大株数	(f) 株	1,250株

※購入可能な最大株数は、計算上、購入手数料なしの場合とする。

Yさんは、配当利回りを見ただけだと、銀行の定期預金の年利よりも良いことがわかった。さらに、購入可能な株数を考慮すると、 の方が、配当金を多く受け取れることがわかった。ただし、定期預金は元本も利子も確定しているのに対し、株価は上下するので、この危険を考えなければならないと思った。

問1 上記の文章中の から の中に入る適切な語句を【解答群】の中から選び、記号で答えなさい。

【解答群】

- | | | | | |
|--------|--------|--------|----------|--------|
| ア. 上昇 | イ. 低下 | ウ. 200 | エ. 2,000 | オ. S社 |
| カ. T社 | キ. ROA | ク. PER | ケ. BPS | コ. ROE |
| サ. PBR | シ. EPS | | | |

問2 〈資料2〉の表の(a)から(f)にあてはまる数値を計算しなさい。なお、計算上端数が生じた場合は、倍、%ともに小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。